

論語を読んで、孔子の教えを知ろう

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
おかげさまで、「開倫塾の時間」はこの3月から29年目に入ります。そこで、今年からは1か月に1つずつ、ためになる古典の話をしていただきますので、よろしく願いいたします。
2. 古典と言えば、一番有名なのは「論語」です。これは、2500年前に中国で活躍した孔子という人の教えを、弟子たちが499章にまとめた本です。今日は、論語の触り(さわり)の部分を紹介させていただきます。
3. これからお話するのは、論語の第1章です。昔の言葉なので少し聞きにくいかもしれませんが、次のように書かれています。「子曰わく(しいわく)、学びて時に之を習う(まなびてときにこれをならう)、亦た説ばしからずや(またよろこばしからずや)。朋有り遠方より来る(ともありえんぼうよりきたる)、亦た楽しからずや(またたのしからずや)。人知らずして慍らず(ひとしらずしていきどおらず)、亦た君子ならずや(またくんしならずや)。」です。
4. この教えは論語の最初にあります、最後の499章まで続く教えです。その意味を少し考えてみたいと思います。「子曰わく」とは、「孔子という先生がおっしゃった」という意味です。「学びて時に之を習う」は、勉強の極意です。「学びて」は「学問をして」という意味です。「時に」の「時」は時々という意味ではなく、「年がら年中、四六時中」ということです。「習う」とは、「繰り返し繰り返し復習する」ことを言います。「学びて」と「習う」は同じようですが、少し違うんですね。「学びて」とは、これはどのようなことなのかとよく理解することです。「習う」とは、繰り返し繰り返し復習することです。「亦た説ばしからずや」とは、「(学びて時に之を習うと)自分でよく理解したことが身に着いて非常に喜ばしい。なんと愉快なことではないか」という意味です。
この「開倫塾の時間」は学習の仕方を考える番組ですので、その極意が「学びて時に之を習う」に示されています。まずは理解して、それを繰り返し繰り返し復習して身に着けることが大事です。いくら理解しても身に着けなければ、例えばテストで高得点を取ることはできないし、社会で役立つこともできないからです。
5. 次の「朋有り遠方より来る」とは、「友達が遠くから来る」という意味です。どのような友達かというと、志(こころざし)を同じくする友達です。知識が豊かになると道を同じくする友達が遠いところからやって来て、学問について話し合うようになります。例えば、宇都宮市をどのような街にしたらいいのか・栃木県をどうするかなど、街づくりについての知識を持っている人は集まってきて、そのテーマについて話し合うようになるということです。そして、「亦た楽しからずや」は

「心の底から楽しい」という意味です。

6. 最後の「人知らずして慍らず、亦た君子ならずや」は、おもしろい内容ですね。「人知らずして慍らず」とは、「こんなに勉強して自分の学問が出来上がっても、この自分を認めてくれない人が世間にはたくさんいる。自分の勉強が常に人に認められるとは限らない。自分が社会で用いられないこともある。しかし、それでも憤らない・怨まない・いらいらしない・腹を立てない」ということです。孔子は60歳の頃に雇い主を探して10年間ぐらい弟子たちと一緒に中国中を歴遊したと伝えられています。その間、誰も孔子のことをあまり認めてくれず、雇ってもくれませんでした。そのため、故郷の曲阜(きょくふ)に戻ってきました。そのようなことがあっても人のことを怨まないというのが、孔子の教えです。また、「君子ならずや」の君子とは、仁と徳の両方を備えた素晴らしい人のことです。
7. これは私の感想ですが、孔子は相当頭に来ていたと思います。それでも怨まない人こそが素晴らしい人だと、孔子は自分を戒めたのだと思います。そこにも孔子の素晴らしさがあると、私は思っています。
8. 今日は、論語の第1章の「子曰わく、学びて時に之を習う、亦た説ばしからずや。朋有り遠方より来る、亦た楽しからずや。人知らずして慍らず、亦た君子ならずや。」を紹介させていただきました。このように、たとえ2500年前のものであっても、古典をよく読むと作者・筆者が時空(時間と空間)を超えていろいろなことを語りかけてくれます。ですから、論語をはじめとする古典をたくさん読んでいただきたいと思います。
9. 論語はどこの本屋さんでも売っていますし、学校の教科書にも載っていますので、ぜひ親しんでください。
そして、親しんできたなら、孔子はなぜこのような教えを伝えたのかをお考えになることをお勧めします。孔子の一生を調べたり弟子たちの様子を調べたりすると、孔子が相手や弟子たちに対して個別にそれぞれにふさわしいことを伝えたことがわかってきます。
10. また、論語を読むと、自分の今までの生活や人生を振り返ること・今後の生活や人生をどうするかを考えることにも役立つと思います。孔子は72歳で亡くなり、そのあとにまとめられたのが論語ですので、おそらく論語の教えが一番よくわかるのは60歳・70歳・80歳代の方々だと思います。子供たちが論語を読むのはもちろんよいことですが、人生の経験を積んだ60歳代以降の方々にぜひ読んでいただきたいと思います。時間がありましたら論語の研究・普及に縁(ゆかり)のある足利市の「足利学校」や東京都湯島の「昌平堂」、孔子の出生地である中国の曲阜を訪問することも趣深いと思います。
11. 先ほどお話したように、これからも月に1回ずついろいろな古典を紹介していきますので、どうかよろしく願いいたします。